

平成22年度 平群町教育委員会 点検・評価報告書

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が平成19年6月に改正され、教育委員会においては、行政事務の管理及び執行状況について、毎年点検・評価を行い、その報告書を議会に提出し、公表することが規定された。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第二十七条の規定に基づき、本町教育行政の充実を目指すとともに、町民への説明責任を果たしていくために、平成22年度の教育委員会の業務の点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものである。

平成23年3月

平群町教育委員会
教育委員長
教育委員長職務代理者
教育委員
教育委員
教育委員(教育長)

米田 幸弘
吉田美智子
篠原 紀
辰巳 健二
森井 恵治

区分	事業名	点検(内容と課題)	評価	
教育委員関係	教育委員会議	定例会を12回開催し、11件の議案を審議した。	A	
	研修	7月16日、造幣局工場・博物館に行き研修を実施した。郡の地教委連絡協議会での研修、近畿地区協議会研修に参加した。	A	
	会議・行事出席	小学校再編成調整会議 教科用図書採択委員会 入園入学式 卒園卒業式 生駒郡研修会 各団体の協議会 学校訪問 幼小中の運動会 敬老会 町民体育大会 文化祭 追悼式 成人式等さまざまな行事に出席した。	A	
学校教育関係	学校施設・設備・備品整備	耐震診断・補強工事	平群中学校においてIS値0.7以上を確保するための体育館の耐震補強実施設計と、平群北小学校体育館の耐震診断を行った。	A
		中学校太陽光発電設置	H22年8月20日に中学校への設置工事が完了、同時に発電を開始。生徒達に太陽光発電システムの発電状況や仕組みの説明、環境問題に関するさまざまな情報を提供し、環境問題に対する意識を高めた。	A
		学校施設の管理・保守	各小・中学校の建物・設備等が老朽化しており、必要になれば迅速に予算を確保し、修繕・修理を実施した。	B
	評価	学校評価	自己評価及び関係者評価を進め、その結果を保護者に伝え、学校と保護者との連携強化に努めた。第三者評価についても今後検討し、その活用に向けたい。	B
		教職員自己評価等	年間3回の面談を行い、自己目標の管理及び勤務状況について指導・評価を行った。具体的な目標設定と、その実現に向けての手立てについて適切な指導をしていきたい。	B
	教職員の資質向上	教職員人事	適切な教員配置に配慮した。全てとはいかないが、長期勤務者の解消が進んだ。	A
		指導・研修	教育委員会の学校訪問及び校長会・教頭会において、現状認識や今日の課題について指導した。特に初任者については、指導主事が全員の授業を参観し、指導を行った。	A
	職員、児童、生徒の健康管理	各種診断・検査・指導	学校保健、環境衛生に係る各種検査、検診、点検を実施。検診および各種の検査をもとに健康状態を評価することで、健康の維持、疾患の予防・早期発見に役立てていく。生活習慣の改善や伝染病に関しての予防にも努めるようにしていきたい。	A
	学校評議員		各園小中学校において全会議あるいは個別の意見など聞いて、意見を学校評価の関係者評価に取り入れるなどして、学校運営に生かしている。	B
	学校図書館	図書蔵書数	学校図書館の図書標準冊数は、H22年度で小学校全体で32,640冊の基準に対し88.2%、中学校13,600冊の基準に対し94.1%の蔵書率となっている。本の廃棄数と購入冊数のバランスによっても大きく蔵書率変動するが蔵書率100%を目指していきたい。	B
	教育課程	指導方針作成	県の教育指導方針をもとに、本町の教育基本方針を作成し、各学校でも教育方針が作成された。	A
		ALT配置	平群中学校に2人のALTを配置し、平群幼稚園、4小学校、平群中学校で、外国語活動の補助を行った。幼児児童生徒は生きた英語にふれ、興味深く学ぶことが出来た。幼小中の連携の活発化にも役立っている。	A
		教科書・副読本	小学校教科書を採択。平成20年度に改訂された社会科副読本「わたしたちの平群町」を使用。	A
		就学指導委員会	平成23年度就学予定の児童生徒について、実態や保護者の思いなどを勘案して、就学に関する方針を協議し、決定した。	A
		ことばの教室	東小学校に開設していることばの教室には、近隣の町からも通級している。また未就学児の相談にも応じるなど、利用者が増加している。平成20年度から、町費の指導者を配置した。町外19名・町内13名が利用している。	A
		教育相談	保護者等より相談があった場合、学校と連携をとりながら対応している。しかし今後、充分に相談を受けられる体制づくりのための人員確保が必要である。	B
	学童保育		270日開所、延べ約1600人の児童の利用があった。町財政健全化の施策から、保護者の協力の下、21年度に引き続き1ヶ月4,000円の保育料を徴収した。開所時間について、更なる延長の要望はあるが、指導員の雇用条件と財政上の問題、親と子どもの触れ合う時間を減少させてしまうなどの点から、今後も十分な検討を継続したい。	B
	奨学金・補助	通学補助	近鉄信貴山下駅と信貴山間区間を運行する路線バスを利用して通学する児童生徒の保護者に対し、負担軽減を図るため通学費を助成する制度はあるが、平成22年度の申請者はなし。	A
		要保護・準要保護世帯援助	財政面での課題もあるが、経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行っている。(小学校88名・4,977,250円 中学校29名3,377,905円 合計8,355,155円)全額町負担。	A
		特別支援奨励費	特別支援教育に就学する児童生徒の保護者に対し、負担軽減を図るため、通学費等に係る費用の一部を補助している(小学校15名・455,404円 中学校4名・202,586円)。	A
		奨学金貸付	要保護世帯並びにこれに準ずる世帯の子女に対し学資の貸付を行い、修学の奨励と教育の機会均等を図った。(平成22年度1名申請)	A
学校等整備	小学校再編成	H21年6月に小学校再編成検討委員会からの答申を受け、H21年10月～H22年5月24日まで町長部局と教育委員会部局で再編成調整会議を合計7回開催し、その後10月には小学校再編成アクションプランを作成して全戸配布をし、住民説明会を3回実施し併せて保護者との意見交換会を4回実施した。今後も継続して課題の解決に努めていく必要がある。	B	
幼稚園教育	教育課程	幼児の遊びを重視した保育を進めている。今年度は健康な心と体を育てるための食育を推進し、自ら進んで食べようとする気持ちが育つように、園内での栽培活動や地域のひととかかわり、五感を大切に農業体験を行った。また、外国の言葉や文化に毎週1回年長児が触れ、楽しく英語に親しみむことや、お茶会をとおして和敬清寂の心を体験した。預かり保育では、園内にいて家庭教育ができるように計画を立て、子どもたちが安心して過ごせる場にした。未就園児には園庭開放や地域の子育て支援の場を設け子育ての支援を行った。特別支援を要する園児には、専門機関に出向き一人一人の個性に応じた指導に取り組んだ。	A	
	幼保一体化施設	幼稚園の老朽化及び駅周辺整備事業に伴う移転の問題があり、幼保一体化とあわせて施設の検討をした。福祉課と教育委員会と幼保職員とで協議し、町長に幼保一体化施設の方向で中間報告を提出した。	B	
	就園奨励費	保護者の所得状況に応じて経済的負担を軽減等することを目的としている。低所得者には手厚く、そして第3子については全額補助とするなど、補助単価の改正を行い、平成22年度から適用している。(平成22年度公立11名・私立83名 事業費6,862,000円)	A	
学校給食	給食の質及び安心安全	小学校で年間180回、中学校で170回 米飯給食を週3回、パン給食を週2回実施した。給食の質については、手作りメニューをできるだけ取り入れ美味しい給食を提供できたことで大変評価できる。また、給食食材にも地元野菜を20品目を使用し、使用量も今年度分が過去最高となった。学校給食におけるアレルギー対策について2学期から脱脂粉乳・卵・乳の含まれないものに変更しアレルギーの児童・生徒に提供できるように取り組んだことや給食費収入と食材支出の調整を行い栄養を保持できる給食を提供できるように取り組んだことが評価できる。	A	
	センターの管理運営	所長を含め2名の職員・県栄養士1名・調理員8名・臨時事務職員1名・調理員パート職員1名・調理補助員1名で一日約1,584食を提供している。センターの老朽化が著しく施設の機能や衛生面に多くの問題を抱えており改善することも課題である。また少子化傾向の中で1人当たりに係る給食経費についても近隣の状況を見ながら十分精査していかなければならない。	B	
	運営協議会	7月28日、協議会(委員17名)を開催、学校の給食に関する事項及び給食センター運営に関し協議を行った。3月28日には、平成22年度の地産地消事業の報告、平成23年度の年間物資の納入業者の決定、給食実施計画説明を行った。	A	

区分	事業名	点検(内容と課題)	評価	
社会教育関係	社会教育委員会	毎年7月、3月に公民館運営審議会と同時開催し(委員会構成委員14人)、各種社会教育事業に関し検討協議をしている。	A	
	基本計画の立案	社会の急激な変化に対応して、町民一人ひとりが生涯を通じて、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められている。本町においては、このような状況の中、生涯学習社会の構築をめざした社会教育の充実を図り、学校、家庭、地域社会・社会教育関係団体等の幅広い連携のもとに、これまで策定した「平群町第4次総合計画」「平群町生涯学習基本構想」に基づき、基本的人権を尊重した生涯学習社会を構築していくため、人々の生涯にわたる自主的な活動の支援に努めている。	B	
	公民館	公民館教室	住民の多様化する学習ニーズに応え、幅広く学習機会を提供することを目的として開講している。21年度から実施したフランス語や韓国語の講座は好評であり、全部で19講座を実施した。今後もより充実した住民活動の場となるよう、住民ニーズを把握し、住民の皆さんの関心の受け皿、かつ、関心の拡大に寄与していく。	B
		文化祭	11月3日・5日・6日にかけて開催した。演技部門で、24団体・出演者498名、展示部門で、出展数312点、模擬店部門で12団体・28品目であった。特別イベントとして、「平群いろは街道 江戸の旅」出発式、静止画アニメ「大和の風 戦国武将 嶋 左近」上映、特別展示として、信貴山朝護孫子寺多宝塔模型を展示した。実行委員を公募した結果、公民館クラブや一般も含めた多くの参加があり、より充実した組織となった。今後も全体で盛り上げていきたい。	B
		中央公民館改修工事	建築後39年が経過し、施設全体が老朽化しているなか、大ホール屋上防水工事・1階男子トイレ改修工事等を実施した。古い施設ではあるが、できる限り気持ちよく使っていただけるよう、引き続き適正な維持管理に努める。	B
	人権交流センター	交流センター事業として、相談事業・人権のつどい事業・ふれあい教室・珠算教室・習字教室・花の寄せ植え講習会・あみぐるみ講習会、人権学習会をおこなった。(6教室・講習) 貸し館業務としての年間稼働率を見ると14.3%であり、今後の運営手法等についても交流センター運営審議会に諮り、意見をいただき調査、研究していきたい。	B	
	観光文化交流館・図書館	協議会	観光文化交流館・図書館協議会を年2回開催。施設運営・事業について指導助言を受けている。開催時期や統計資料のわかりやすい報告が課題。	A
		施設運営全般	地域の観光文化歴史産業の情報拠点として、経済建設課と連絡を取り、各種問合せに対応。23年3月に「平群町ボランティアガイドの会」が発足、組織的な活動を開始、あすのす平群はその受付窓口。図書館電算システムが更新され、インターネットによる蔵書検索が可能に。次年度はネット予約と県立図書館の県内図書館横断検索にも参加予定。開館5周年を迎え、図書館づくり友の会との共催による「あすのす寄席」、寄贈古銭の展示、潘礼プレゼントを実施。子ども読書活動推進計画の策定が遅れているが、町内小学校図書館と県立小学校の視察を行う等、着実に作業を進めており23年度前半の策定終了を目指す。一方、福祉課の補助金「地域子育て創生事業」による校・園への団体貸出システムの整備とブックスタートフォローアップ、子どもゆめ基金委託事業「地域ぐるみの子ども読書活動推進事業」でおはなしボランティアの養成講座などを実施。現行の職員体制では補助金・委託事業の申請・報告・予算執行事務の負担が大きく処理が遅れ気味ながら、財源確保のため努力している。貸出・予約・リクエストなどの利用が順調に伸びる中、企画展示・講座開催など多彩な事業を、約40名の登録ボランティアと「おはなしの会」「史蹟を守る会」などの団体の協力を受けて実施。今後も住民に開かれた施設としてのスタンスを大切にしたい。	A
		図書館運営基金	今年度は10件約20万円の寄付金を頂く。基金より40万5千円を繰出し、小学校での英語活動スタートにあわせ児童書洋書(6万円)、増加する図書資料の効率的配架、書架フロア整備のために棚板・踏み台・ブックトラック・書架サイン用品を購入(25万円)、図書館webシステムの導入に伴う回線設備に必要なメディアコンバーター(9万5千円)を購入。3月末の基金残高は約57万円。	A
	社会教育団体	平成17年度に団体の位置づけや活動内容を審査し、11団体を社会教育団体に認めている。うち教育委員会の補助団体として10団体、福祉課の補助団体として1団体となっている。	A	
	人権教育	指導者学習講座	行政職員及び地域住民を対象に講演形式の研修を行った。「人権のまちづくり」、「天国に旅立った息子と共に生きる」のテーマで開催し、合計90名の参加があった。研修で修得した知識を職場や地域活動に生かせるようにしていきたい。	B
		地区別懇談会	地域住民を対象に人権学習の場として「差別のない住みよい社会、ぬくもりとやさしさのある地域社会」の実現を目指し、9自治会で実施し、延227名の参加があった。開催回数が増えるなか、高齢者問題や児童虐待など時宜にかなった内容を取り上げ、できる限り行政と地域が情報交換・意見交換し、グループ討議による研修を進めた。今後も地域の意義・必要性について話し合いを続けていきたい。	B
		平群町子ども人権学習教室～へぐりai教室～	なかまづくりや家庭の絆などを学び自他を大切にする心の育成と規範意識・人権意識を高めるために実施。平成22年度は4回開催し、84名の参加があった。今後も気軽に参加でき、自他を大切にする気持ちやものづくりの楽しさを吸収して帰ってもらえるような教室作りを目指していきたい。	B
	青少年教育	子ども会カーニバル ウオーラリー大会 新春お楽しみ会 映画鑑賞会	子ども達は、遊びを通じて物事の善し悪しを学び、友達づきあいの中から他人への思いやりを身に付け、対人関係を学んでいく。町子連の方を中心としながら企画し、家庭や学校における教育と共に、地域に根ざした欠く事のできない教育的な活動として実施している。	A
	成人教育	へぐり友遊教室	町民一人一人が生涯にわたって学ぶことができ、生きがいにつながる生涯学習を総合的に支援することを目的に実施。平成22年度は27講座、延べ524名の参加があった。限られた予算で、いかに住民のニーズに応えられる生涯学習を提供できるかが、今後の検討課題である。	A
	女性教育			
高齢者教育				
青少年健全育成	青少年補導活動	青少年の非行防止と健全育成を図ることを目的として活動し、毎月2回、第3土曜日・第4金曜日の午後8時から巡回補導(警察含む)の実施(5班体制)。第3土曜日は、定例会議を開き、町内事件発生状況事案等の情報交換をし、また、年2回の研修(護身術等)の実施している。巡回補導時に面識のない少年と接する場合など、危険を感じることもあり、今後も補導員に対して護身術等研修活動を強化する必要がある。	A	
成人式		「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます」記念すべき日という趣旨を踏まえ、平成23年1月10日(祝)成人の日に実施した。新成人参加者数160名、出席率は80.4%の高率であった。運営から開催まですべて行政が実施しているのが現状であるが、新成人の意見を出来る限り反映させ、自主的な「成人式」を目指していくのが今後の課題である。	A	

社会教育関係	文化財保護委員会	委員6名(県専門職員2名・町内有識者4名)、委員会を年1回開催。文化財保護行政の現状や問題点、指定文化財の候補等を協議。建物の劣化が進む普門院(本尊が重文で、法隆寺に避難中)の対処策も協議している。	B	
	指定文化財	現在、国指定7件、県指定11件、町指定19件が指定を受けている。国指定民家の維持管理には県補助金に併せて補助金助成を行っているが、他の指定文化財への対処に及んでいない。	C	
	調査・保護	文化財の保護面では、古墳等の維持管理費用が確保できず、職員で対応する部分が増加し、未実施の範囲も拡大している。文化財担当者が観光文化交流館の館長・学芸員を兼務しており、人員配置面から積極的な文化財調査を実施できない状況にある。2月末に絶滅危惧種のカスミサシショウウオが町内のため池で採取され、その記録や連絡調整、放流等を行った。	C	
	普及・啓発	観光文化交流館で、発掘調査の出土品や文献資料等の展示会を開催。月例の文化財講座も実施している。古墳の案内等各種パンフの作成、配布、町内小学生への古墳案内等、地域の文化財理解にも努めている。町文化財担当者による公民館講座「観光ボランティアガイド養成講座」を実施し、平群町観光ボランティアガイドの会の発足に至った。平城遷都1300年記念事業に関連して国や県が保管する瓦や土器の里帰り展の実施や、長屋王の紹介をしたほか、町行事である「へぐり時代祭り」の歴史ウォークにも対応している。	A	
	団体育成	平群史蹟を守る会：補助金助成と古墳整備、月例会、機関誌の編集、創立40周年記念事業への協力と指導を行う。また、平群町観光ボランティアガイドの会が発足、その支援を行う。	B	
学校支援地域本部事業	学校教育の一層の充実を図るため、学校の要望に応じて必要な支援を地域のボランティアが行い、地域ぐるみで学校や子どもたちの支援を目指しているが、学校とボランティア・地域との連携、情報交換が更に必要である。	B		
放課後子ども教室	子どもの安全で安心して活動できる居場所づくりを目指し平群西小学校で実施した。運営委員会を組織しながら、10人の方にコーディネーター・学習アドバイザー・安全管理員などの役割を担って頂いた。基本的には、ボランティアの方に自主的に運営していただけるような体制が必要である。また、指導員の人材確保と育成が課題である。	B		
区分	事業名	点検(内容と課題)	評価	
社会体育関係	基本計画の立案	事業の企画実施	基本方針として、住民の健康の保持増進を図り、住民間の交流を進めるよう多様なニーズに応えた社会体育活動の展開と、それを促進するため、既存施設の維持管理の充実に努める。また、学校体育施設の地域への開放とその活用を進め、関係団体や指導者の育成を図る必要がある。体育行事については、高齢者の増加や参加者のニーズの変化に伴い、既存の種目では参加者の減少や敬遠が見られ、さらなる工夫・検討が必要である。従来型の種目に加えて、誰もがより簡単に楽しく参加できる軽スポーツもより積極的に取り入れていく。少子化や子どものスポーツ離れの傾向がみられるが、今後も体育指導委員会や町内各学校の理解と協力により、引き続き体育行事の継続をしていかなければならない。	B
	施設の設置・管理	町内のグラウンド・テニスコート・体育館等の維持管理を(財)平群町地域振興センターに委託している。体育施設の利用率は概ね高いと考えるが、施設の修繕箇所が年々増えているにもかかわらず、予算確保が困難となっている。特に、ウォーターパークについては、今後プール床面の全面塗装、遊具やシャワーの全面補修、プール壁面のペンキ塗り替えなど、多額の経費が必要であり、大きな課題を抱えている。	B	
	設備・機材の充実	一定規模の設備や機材は、整備されているが、その老朽化が目立ち始めており、計画的な入替が必要である。	B	
	学校施設開放	4小学校の体育館・グラウンド、中学校の体育館を開放しており、利用率は非常に高い。毎年度一定の維持補修経費や、施設備品の充実が必要である。	B	
	体育指導委員	春・秋の少年少女スポーツ大会や陸上記録会の開催、子ども駅伝大会への参加などを行っている。ただ、指導者の高齢化が目立ち、より若い世代の指導者の育成が必要である。	B	
	スポーツ団体の指導育成	余暇時間の増加や健康に対する関心や意識の高まりにより、住民のスポーツに対するニーズが高まるなか、いろいろなスポーツを楽しめる地域コミュニティの場として総合型クラブを創設を目指した取組みを行っている。	B	
	スポーツ大会開催	年間を通じて23の大会・教室を行っており、社会体育に対する取り組みは積極的である。ただ、野球やソフトボールといった従来型のスポーツ大会は参加者も毎年固定化されつつあり、従来型の種目に加えて、誰もがより簡単に楽しく参加できる軽スポーツも積極的に取り入れていく必要がある。	A	
	町民体育大会	開催にあたっては、ここ数年高齢化の影響による参加希望者の減少や、参加者のニーズの変化に伴う従来型の種目の敬遠など、その開催を疑問視する声を聞いている。特に、障害物を含むリレー競技の敬遠が目立っており、大会の参加に消極的な意見も多い。現状の体育大会を如何に住民の自主的・主体的な参画に導いていくのが、大きな課題である。	B	
	水泳教室	3年生以上の小学生を対象に、泳ぎ方、息継ぎの仕方など基本的なことをマスターするため7日間開催し、延べ795人の参加があった。子ども達が楽しみにしている教室の1つである。平成21年度から大和郡山市水泳協会所属の指導員に指導を依頼し、専門的な指導を受けることができた。	A	

評価の基準 A: 満足
B: ほぼ満足
C: 要改善

平成22年度平群町教育委員会点検・評価報告書に関する意見

本報告書は、教育委員会の各事業についての点検・評価を実施し、現状について適確に評価が行われており、課題についても適切に記述されているものと考えられます。

学校教育、社会教育、社会体育の各分野の評価についてみると、A、B、Cと評価された割合は、次のようになっています。

	A評価の割合	B評価の割合	C評価の割合
学校教育分野	64.3%	35.7%	0%
社会教育分野	50.0%	43.3%	6.7%
社会体育分野	22.2%	77.8%	0%

ここで、C評価とされているのは、指定文化財に関することと文化財の調査・保護に関する2項目のみで、その他は、満足またはほぼ満足と評価されており、全体としては、満足できる状況にあると判断することができます。C評価となっている部分については、財政面での支援強化や人員配置の工夫などで解消できるものと考えられるものであり、課題解決のための財源確保の努力が必要であると考えられます。また、昨年度との経年比較で見ても、Cと評価された事業の割合は減少しており、改善が進んでいるものと考えられます。

報告書の記述自体は明確でわかりやすいものとなっていますし、具体的な内容や数字による記述もあり、全体としては工夫された点検・評価報告書となっていると考えられます。しかし、それぞれの事業について、評価指標の明示がないため、評価の根拠が報告書からだけではわかりにくい部分も見受けられます。町民のみならずとってよりわかりやすい点検・評価報告書とするためには、「なぜ、その項目をA(あるいはB、C)と評価としたのか」の根拠としてその項目の「評価指標」を明示して公表していく努力が必要ではないかと思われます。

天理大学人間学部 教授 上田喜彦